

株式会社大林組 エンジニアリング本部 情報エンジニアリング部 情報技術課 課長 山口 直之氏

シェア環境を利用して新しいワークスタイルにチャレンジ 遠距離を気にせず密度の高いコミュニケーションを実現!



山口氏の所属する情報エンジニアリング部は、建設会社のエンジニアリング部門として、最先端ICTで建物に付加価値を提供する部署です。プロジェクト初期の営業段階から設計・施工・運営段階に至るまでを一貫して提供するため、日々お客様や現場とのコミュニケーションが欠かせません。

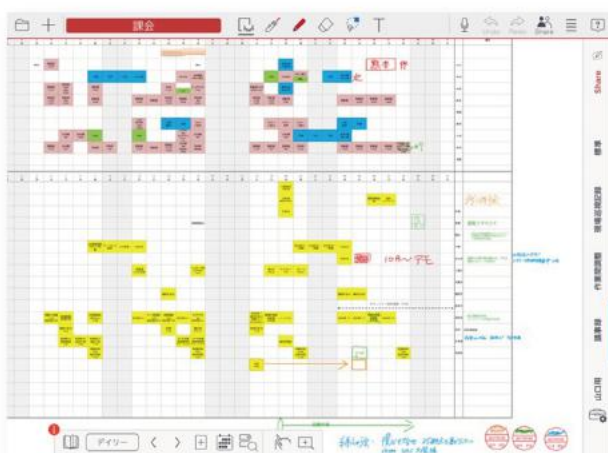
山口氏は最近、一時的に大阪に駐在されることになり、東京と大阪両方に席があります。東京に在席する部下の方々とのコミュニケーションに、MetaMoJi独自のリアルタイム伝搬技術によるシェア環境を利用されています。その具体的な活用方法や導入効果についてお話をうかがいました。

進捗状況や提案書も細かい点まで確認が可能

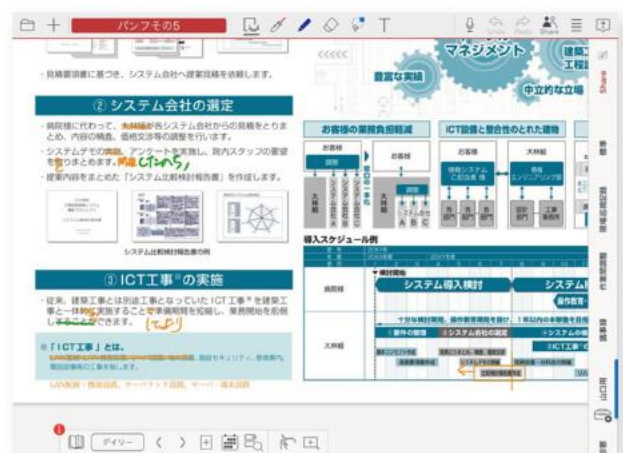
「当課では課員全員が東京に在席しており、私だけが大阪に駐在しています。週初めには Skype とシェアノートを使って課内会議を行います。メンバーは東京の会議室で、私は大阪の自席でイヤホンをつけて、という環境で行っています。各案件の進捗管理確認に利用しており、PDF で各メンバーの予定表を読み込み、案件毎にその進捗を確認していきます。まず、担当課員一人一人が説明してアップデートと懸念事項を確認していきます。

発言者が説明するページに工程表を読み込み、レーザーポインターで該当箇所を示したり、みんなで書き込んだりしながら、「ここは、どうなった?」というようなコミュニケーションが楽にできています。

そのほか、情報エンジニアリング部で作成する建物のセキュリティなど ICT サービスの提案書類は、すべて私が確認を行います。課員からシェアノートでレビューを受けて、細かい指摘を行います。ここのカードリーダーの取まりは大丈夫かな?この文言はこう変えた方がいいかな?などの細かい確認もできます」



シェアノートで各案件の進捗状況を確認



シェアノートに細かい指摘も書き込み可能

電話だけでは伝わらない細かいニュアンスまで共有でき、コミュニケーションの密度が向上！

「また、議事録のチェックなどもシェアノートに赤入れをしてフィードバックをしています。部下とはシェアノートと電話で気軽にいつでもコミュニケーションがとれています。特に、シェア環境では常にノートが共有されていて、各担当者がそれぞれに書き込みを行うことで、電話だけでは伝わらない細かいニュアンスまで共有でき、コミュニケーションの密度は遙かに向上しました。メンバーが赤入れしているのを見て即コメントを書くなど、遠距離を感じず仕事ができています。

当初は、部下を東京に残して大阪に駐在することに迷いもありましたが、短期的ならばTV会議とシェア環境で、課員とのコミュニケーションは十分にとれると考えました。ほぼ予想どおりで大変助っています。もちろん私自身の部下に対する信頼と彼らの協力があったからであることは言うまでもありません。

今回、新たなワークスタイルを考えるうえで、非常に有益なツールであったと感じています」(山口氏)



遠距離を感じずにコミュニケーションが可能

チームの新しいワークスタイルをシェア機能が支援

山口氏は、顧客の方とはFace to Faceでコンタクトをとり、社内の部下の方々とは遠隔テレワーク環境で密に仕事をされています。まさに、新しいチームワークを実践されており、それをMetaMoJiのシェア機能が支えているのだと思うと感銘を受けました。

(浮川初子記)



写真右より、株式会社大林組 山口氏、弊社専務 浮川初子

お客様プロフィール

株式会社 大林組

エンジニアリング本部 情報エンジニアリング部 様

URL : <http://www.obayashi.co.jp/>

2017年7月取材。画面キャプチャ、機能、肩書は当時の情報にもとづきます。

問い合わせ先
開発・販売

 MetaMoJi

株式会社MetaMoJi

〒106-0032 東京都港区六本木 1-7-27 全特六本木ビル EAST 4F

TEL 03-5114-2912 FAX 03-5114-2526

URL <http://metamoji.com/jp/>

J_SB/EY-OBY-201711-1 2017年11月現在